

影響調査事例研究ワーキングチーム中間報告書
～男女共同参画の視点に立った施策の策定・実施のための
調査手法の試み～

平成 15 年 11 月

内閣府男女共同参画局
影響調査事例研究ワーキングチーム

はじめに

男女共同参画社会基本法では、国及び地方公共団体は、男女共同参画社会の形成に影響を及ぼすと認められる施策を策定し、及び実施するに当たっては、男女共同参画社会の形成に配慮しなければならないとされています。このためには、国や地方公共団体の施策が男女共同参画社会の形成に及ぼす影響を調査する「男女共同参画影響調査」が重要であり、その調査手法について内閣府男女共同参画局に影響調査事例研究ワーキングチームを設置して検討を行ってまいりました。

本中間報告書は、その副題に示したとおり影響調査の「手法の試み」です。影響調査は、すべての施策を対象とするものであり、調査方法を一律に決めることは困難です。もとより、広範多岐にわたる施策のすべてについて、ここに示した調査手法が適用されるものではありません。とはいえ、予算、人員など様々な資源に制約がある中で、各種施策に男女共同参画の視点を組み込ませるためにも、影響調査を進めることは極めて重要であることから、この度、ワーキングチームにおける現段階での検討成果を中間報告として公表することといたしました。

本中間報告書で紹介した各種事例や手法の例を手がかりとして、国や地方公共団体等各方面で影響調査についての検討を深め、調査の実践を試みていただき、その過程でお気づきの点、御意見等をお寄せいただきますようお願いいたします。皆様のご意見、新しい事例等を取り入れながら、よりわかりやすく効果的な調査手法の開発に努めていきたいと思っております。

目 次

1 . 序	1
2 . 影響調査とは何か	2
(1) 影響調査とは何か	2
(2) 影響調査の意義	3
(3) 政策評価との関連	4
3 . 調査の主体、対象とする施策、時期	5
(1) 実施する主体	5
(2) 対象とする施策	7
(3) 実施時期	8
4 . 影響調査の手法例	8
(1) 調査について	8
調査項目 1 - 女性と男性のそれぞれの役割や状況、女性と男性が実際に必要 としている事柄等の調査・把握	8
調査の趣旨・内容など	
調査のメリット	
調査の具体的方法	
ア．性別データから分かることの事例	
イ．有識者等からヒアリングをした事例	
ウ．女性の意見等を集約するための手法	
調査項目 2 - 女性と男性に対する施策の効果（アウトカム）及び波及効果（副次 的効果）あるいは意図しない効果の検討	13
調査の趣旨・内容など	
調査のメリット	
調査の具体的方法	
(2) 分析・評価について	15
(3) 影響調査の調査分析評価過程例	16
調査手法 1（調査項目 1 の調査結果から施策の改善されるべき点が明らか になる分析・評価過程）	
調査手法 2（調査項目 2 の調査結果から施策の改善されるべき点が明らか になる分析・評価過程）	
5 . 影響調査の効果的な実施のために（留意すべき点）	23
(1) 性別データの収集・整備	23
(2) 女性と男性の意見等の収集方法の活用	23
(3) 外部の専門家との連携	24
(4) 関係府省（部局）間の連携	24
(5) 影響調査についての研修の実施	24
(6) 影響調査の事例の収集と事例から可能な手法の開発	25

6 . 参考資料	2 6
(1) 諸外国の参考事例	2 6
カナダ ジェンダーに基づく分析 (Gender-based Analysis)	
スウェーデン 3 R 方法 (3 R method) 及び GERAC (Gender Equality – Review, Analysis, Conclusions)	
英国 「2002 年度プレ予算報告書に対する応答」 (Response to the 2002 Rre Budget Report)	
(2) 女性の意見を集約するための手法事例	3 0